

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム「けーせん」

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372600288		
法人名	社会福祉法人稲泉会		
事業所名	グループホーム「けーせん」		
所在地	岩手県西磐井郡平泉町平泉字片岡72番地3		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0372600288-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSjOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0372600288-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSjOnCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年12月3日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根差した施設を目指し、毎年、7月7日に地域サロンの会と合同の七夕会を開催しています。地域交流を深める行事として定着しています。また、利用者の方々との協働で作成した七夕飾りは役場ロビーに展示させていただき町民の方々にひろく見てもらえるようにしています。設備面では、移乗能力が低下しても安全に入浴できるよう浴室にリフトを設置し、入浴を楽しんでいただいています。その他、電動ベット、大型加湿器・空気清浄機導入、防災のため屋外サイレンなど利用者の方々から安全・安心した生活が送れるよう積極的に取り組んでいます。その他、平成28年に地域住民の方から子猫の飼い主の相談を受け、アニマルセラピーとして二匹の子猫を譲り受け、家族の一員として暮らしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「時間にとらわれないほっと安らげる場所であり続けたい」との理念を掲げる事業所は、東に金鶏山を望む町の福祉ゾーンとして位置づけられた高台の一角に、法人本体の特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどと一緒に立地している。開設から10年以上を経過し、課題山積の草創期を脱し、家族の思いも確り受け止め、どの利用者も自宅にいるような感覚で過ごすことができるよう日々努めている。近所の方からもらった人見知りする二匹の猫が、事業所の空気そのものに、利用者のベッドの下で部屋の主と一緒に穏やかに昼寝している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム「けーせん」

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、管理者と職員が理念を共有し事業計画書の作成にあたっている。会議等を通じ、理念の確認を行っている。また、理念を施設内に掲示することにより職員への意識付けを行っている。	「ほっと安らげる」グループホームとして、日々接する利用者のみならず、家族にとってもいつでも訪問しやすい、なんでも相談出来る事業所風土を備えている。家族の都合で利用者の配偶者が何泊か泊っていくこともある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕会・防災訓練、草刈奉仕(地区青年会・民生委員)の活動が定着し、なじみの関係が構築され交流が深まっている。	福祉ゾーンとして出発したものの新興住宅地の色彩が濃く、地域の一般住民との交流は限られたものになっているが、地域のボランティア団体や青年会等が定期的に訪れ、また地域団体の要請で学習会等に職員を講師として派遣している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元民生委員の方と一緒に認知症の研修会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に活動報告(写真活用)を行い利用者・出席者の意見を求めサービスの見直しを図っている。	特養と合同の開催は行っていない。地域の代表としての委員は民生児童委員で、自治会長等はテーマに応じ参加している。委員の幅を広げ実務的な意見を頂けるよう、管理者は地域の自主防災組織のリーダーの委員委嘱を考えていきたいとしている。	特養と同様に、地域の社会資源である保育所や小学校との交流が望ましく、それら施設の関係者の運営推進会議委員委嘱を検討することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の地域ケア推進会議に出席し、意見交換を行っている。また、グループホーム独自の広報誌を配布したり、七夕飾りの展示、敬老会、町の産業祭に参加し、協力関係を築いている。	制度改正等の情報は広域行政務組合からもたらされている。町保健センター主催の地域ケア会議を通じ町全域の状況を把握することができる。町の協力も得て、年4回発行の法人広報紙「きずな」を町内全戸に配布している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きを基本とした身体拘束廃止についての指針を策定し、定期的に研修を行い身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束廃止に関する指針、研修、委員会は所定通りとしている。転倒による骨折を契機に、家族と相談したうえで、利用者の不穩等に応じてベッドに4本柵を臨時的に用いている。スピーチロックの防止に向け、毎月のチームケア会議で接遇について注意喚起している。	

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の基本の理解に努めている。中でも心理的虐待については言語・態度によるものであるためアンガーマネジメントを活用して取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	費用、退所の関する事項には時間をかけ、理解しやすいように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については随時対応している。家族については面会・誕生会等に日頃の生活状況を伝え、意見を伺っている。	家族の要望は、来訪時に伺っており、あっても食事に関するものが殆どである。重度化した場合の特養入所の途が期待されることもあり、事業所、職員に対する感謝の気持ちを伝えられる場合が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議では職員からの意見を求め、相談には随時対応している。	管理者は日に1回は職員・利用者の様子を確認しているほか、全ての記録を特養に居ながら閲覧出来るシステムで職員の提案、気づきを把握している。職員から提案が多い安全に介護するために必要なものは、直ちに用意している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則・給与規程については働きやすい職場づくりに向けて整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTを基本に内部研修を定期的に行い、人材育成を行っている。外部研修は職員のレベルに応じて参加させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム定例会、県GH協会主催の研修の場を活用している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人の心身の状況について家族から確認したうえで、本人の表情を観察しながら対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面接では傾聴の姿勢で話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを的確に行い、課題を整理しながら必要サービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自己決定を尊重し、できる事に目を向けて支援することに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の働きかけ、家族参加の行事(誕生会、夏祭り、敬老会、忘年会)を行い、家族との関係が希薄にならないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援を中心に支援している。	おなじみさんは、いつの間にか毎月来ていただく床屋さんだけになり、代わって最近「サロンの会」や「お手玉の会」「草刈り奉仕団体」などボランティアとの交流が活発になって来ている。地域住民に頼まれ飼いだした猫のパンコとトラコがアニマルセラピーの役を果たしている。	事業所周辺を利用するなどし、日光浴を兼ね外気に触れ、季節の移り変わりを感じさせたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の人間関係を的確に把握し、必要な調整(食事席、居室配置)を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本体施設の特養に入所する場合の相談・支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	選択可能な対応を提案して、本人の自己決定を尊重して対応しています。困難な場合は、これまでの生活から推測して対応している。	入居時には食事や外出の希望など、一般的な事柄の確認にとどまるが、入居後に担当職員は、利用者が出来ることの把握を心掛けている。特に耳の不自由な方には選択肢を示しながら傾聴している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの確認が難しい場合は、家族、関係者から必要な情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活上を客観的に観察し、情報の共有により状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状及び支援内容を整理し、改善・維持の可能性についてチームで検討している。	基本6か月ごとに作成し、状態の変化に応じ見直している。本人が出来ることを活用する計画に向け、チームケア会議での話し合いをベースに管理者を補佐するリーダーが原案を作成し、ケアマネである管理者と協議して成案としている。家族の願いは、少しでも長くこの事業所で過ごさせたいとするものが多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	客観的事実にもとづき記録し、日々のミーティング等で情報を共有し、必要に応じ見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院については、家族の状況に応じて対応している。その他は、既存のサービス以外には取り組んでいない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族、近隣住民、民生委員、婦人会と連携し、地域とのつながり続けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の確認を行い、入所後もかかりつけ医の指示のもと健康管理を行っている。	町内又は隣接市の開業医をかかりつけ医とし、眼科を含め通院同行を前提としたシフトのもとで職員が同行している。最近配置した非常勤のパート看護師が、日常の健康管理を担っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、食事・水分摂取量、排泄状況の確認を行い、異常が見られた場合は、速やかに看護師に連絡し、必要な対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書により必要な情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針のもと、本人、家族の意向を尊重して対応している。	「看取りの指針」を作り入居時に本人や家族に丁寧に方針を伝えている。現状、医師と職員体制の理由から看取りは困難であるものの、食事の全介助等、事業所での介護の域を超えた場合には、特別養護老人ホームへの入所を基本としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し、定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施している。地域とは防災協定を結び、訓練にも毎回、参加していたいっている。	避難訓練を年2回実施し、うち1回は夜間を想定している。地域との協力のもと、訓練には運営推進委員や区長、地域住民も参加し、二次避難所は道路を挟んだ障がい者支援施設としている。非常時の職員通報装置、非常用サイレン、2台の自家発電機を備え、3日分の水、食料を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の基本法人「人権を尊重します。」を基本に権利擁護の基本的視点を持って対応している。	権利擁護の基本を利用者と職員との対等な人間関係とし、言葉遣いが乱れてきた場合には、チームケア会議で管理者自身を含めて全員で振り返り、上から目線の介護とならないようその未然防止に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者ニーズの把握・分析を行い、自己決定を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の意思で選択し、決定できるよう選択可能な対応を提案して本人の選択を尊重して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理髪(毎月)買物(定期)の機会をもうけ、身だしなみへの関心が薄れないよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なじみのある「はっと」作りの他、お好み焼き、焼きそば等はホットプレートを活用して職員と一緒に作っている。日々の食事の準備・片付けをお願いし、役割を担ってもらっている。	職員が作った献立は母体法人の栄養士に見てもらっている。数名の利用者が野菜刻みや茶わん拭きを手伝っている。嚥下運動をとり入れるなどし、利用者にはゆっくり食べていただいている。誕生会などの行事食には「いものこ汁」や「すいとん」などの郷土食を取り入れ、また誕生会の希望メニューのリクエストは好物の「おさしみ」が多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、本体施設の特養栄養士のアドバイスのもと献立を作成しており、摂取量については本人の嗜好・体調に応じて適量を摂取してもらえるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行ってもらっている。自力で困難な方には介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表により排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	利用者一人一人の排泄チェック表を見ながらトイレの自立排泄を誘導し支援している。完全自立排泄は1名、リハビリパンツ使用3名、オムツ使用者2名となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課として、体操を実施している。水分については、食事以外に1000cc～1500ccを目標にして支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を確認し、入浴日を設けている。浴槽の出入りが困難な方には、リフトを利用して湯舟につかり安全・快適に入浴していただいている。	入浴は、週2回入浴剤を使うなど、リフトを利用する方を含め、ゆったりと楽しんでいただいている。異性介助を嫌がる場合には柔軟に対応し、着替えも職員が見守り又は手を貸している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムを尊重しつつ、夜間安眠できるよう日中は活動的なプログラムを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケースにファイルし、薬の効果・服薬回数を把握している。薬の副作用についても確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の関心のある事、今、できる事に着目して本人らしい生活が継続できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の生活では屋外での日向ぼっこで気分転換を図っています。お花見、ドライブ、外食等の支援を時には家族の協力も得ながら支援しています。	利用者の希望に沿って、お墓参りやふるさと訪問としてドライブに出掛けている。誕生会やお花見、紅葉狩り際には決まって外食とし、景勝巖美溪へは評判のアイスクリームを食べて帰る楽しみがある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出、買物の機会をもうけ、金銭感覚の低下防止に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話することができる事を伝えている。手紙については希望があれば代筆する事を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、ホールには季節の花を生けたり、季節感のある作品を協働で作成し、飾っている。玄関には毎年、七夕飾りを設置している。そのための設備も工夫している。	玄関を入ると壁面に利用者と職員が一緒に作った干支の切り絵が飾られている。室温調整された明るい談話室を見渡すように台所があり、前方の8畳ほどの小上がりには、大きな炬燵が設えてある。2匹の猫は利用者の家族の役割を十分に果たしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールには、テーブル席の他に和室があり自由に利用することができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物については持ち込みの制限はしていない。立ち上りが困難な利用者には電動ベットを用意し、安全に立ち上られるよう配慮している。	居室はすべて山菜名で表示され、その横の可愛い掲示版に、自分で描いた絵などが飾られている。洗面台や介護用ベッド、エアコン、扇風機、クローゼットが備えられ、家族の写真やテレビ、仏壇、ぬいぐるみ等を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴槽には本人が利用しやすい位置に手すりを設置している。避難口には、手すり・スロープを設置し、屋外には非常サイレンを設置し、災害時の安全対策にも配慮している。		